

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
九州医学技術 専門学校		昭和36年5月26日	今村 文章		〒852-8053 長崎市葉山1丁目28番32号 (電話) 095-856-2120	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 九州総合学院		昭和62年7月16日	川越 宏樹		〒860-0816 熊本市中央区本荘町657番地 (電話) 096-366-3862	
目 的	医療分野における有為の人材を養成するために必要な知識及び技能を習得させるとともに、社会生活に必要な知識、道徳的人格の育成を、はかることを目的とする。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	専門	臨床検査科	3年(昼)	単位時間 (104単位)	平成6年文部省告 示第84号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1680単位時間 (単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1320単位時間 (単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人		131人		6人	34人	40人
学期制度	■2学期制 前期：4/1～9/30 後期：10/1～3/31			成績評価	■成績表 (有) 無 ■成績評価の基準・方法について (イ) その科目の年間出席時間数が臨執すべき時間数の3分の2以上であること。 (ロ) 科目修得の認定は、100点法で、60点以上でなければならない。	
長期休み	■学年始め：4/1 ■夏 季：7月21日～8月31日 ■冬 季：12月21日～1月8日 ■学 年 末：3月21日～4月8日 ただし、期間の変更などの場合は、校長名をもってこれを公示する。			卒業・進級条件	(イ) 本校の所定の教育課程を履修し、その科目をすべて習得していること。 (ロ) 所定期日までに学納金を完納していること。	
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無 ■長期欠席者への指導等の対応 担任を中心とした対話作戦、保護者との連携、電話作戦など			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、校外清掃活動 ■サークル活動 (有) 無 バスケット、バレーボール、バドミントン ペン字サークル等	

<p>主な就職先</p>	<p>■主な就職先、業界 医療機関(病院、検査センター等) ■就職率 92.0% 進学(大学、専門学校) 4% ■卒業者に占める就職者の割合 92.0%</p> <p>(平成28年度卒業者に関する 平成29年5月時点の情報)</p>	<p>主な資格・検定</p>	<p>臨床検査技師国家試験受験資格 健康食品管理士 MOS試験 (Word, Excel)</p>
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 10名 ■中退率 7.8 % 平成28年 4月 1日在学者 128名 (平成28年4月入学者を含む) 平成29年 3月31日在学者 118名 (平成29年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更。学力不足、家庭事情(学費など) ■中退防止のための取組 補習、補講、個別指導、保護者との連携、スクールカウンセラーとの相談</p>		
<p>ホームページ</p>	<p>URL:http://www.kyugi.ac.jp</p>		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

臨床検査科では、医療分野における有為の人材を養成することを目的としており、病院施設関係者等を教育課程編成委員会委員に選任し、医療業界の専門性の動向、医療技術実務に関する知識、技術、技能について、関係者からの意見等を十分に反映して、授業科目の開設や、授業の内容・方法の改善・工夫を図っていく方針である。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
管原 正志	西九州大学 健康福祉部 教授
南 惣一郎	長崎大学病院 検査部 技師長
金原 俊輔	長崎ウエスレヤン大学 教授
今村 文章	九州医学技術専門学校 校長
諸隈 博	九州医学技術専門学校 教務部長
坂口 みどり	九州医学技術専門学校 教務課長

(開催日時) ※平成28年度

第1回 平成28年7月16日 16:00~18:00 九州医学技術専門学校 パソコン室

第2回 平成29年1月24日 16:00~18:00 九州医学技術専門学校 パソコン室

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

講義や演習、実習で学んだ知識や技術をもとに、実際に病院や施設・機関等で臨床検査技師に指導・助言を受けながら、より具体的・個別的に実務を実践することを目的とし、長期に渡り臨地実習を行う。

また、学内の講義、実習においても、実際に医療施設で臨床検査技師として働いている方を講師として招き、より医療現場に即した講義、実習を行っている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨地実習 (臨床検査総論)	尿検体をはじめとして一般的な病態を把握するための検査を学ぶ	厚生労働省届出・承認済みの施設
臨地実習 (病理組織細胞学)	病理組織標本作製をはじめ組織染色標本を学び、解剖を通し、人体の構造を学ぶ。	厚生労働省届出・承認済みの施設
臨地実習 (臨床生理学)	循環機能検査、呼吸機能検査をはじめとして患者様と直接かかわる業務を学ぶ。	厚生労働省届出・承認済みの施設
臨地実習 (臨床化学)	採血に得られる検体より病態を把握し、診断の補助的役割を学ぶ。	厚生労働省届出・承認済みの施設
臨地実習 (臨床血液学)	血液成分の組成、形態を見極める技術を駆使し、診断の補助的役割を学ぶ。	厚生労働省届出・承認済みの施設
臨地実習 (臨床微生物学)	各種検定の採取法、保存法をはじめ病原微生物の同定方法などを学ぶ。	厚生労働省届出・承認済みの施設
臨地実習 (臨床免疫学)	各種染色法、アレルギー検査や輸血・移植免疫の検査・機序を学ぶ。	厚生労働省届出・承認済みの施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校に通う学生が、将来、臨床検査技師として医療現場で働くために必要な知識と技術を身につけさせることが、本校教員の職務であり、その教員に対し職務と責任の遂行に必要な知識、技能などを修得、教員としての指導能力の向上のため、企業等と連携を図りながら、職員の専攻分野における研修・研究を行わせる方針である。

そのために、各学会、研修会への参加、また、病院等での実務研修を行う。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年5月1日現在

名 前	所 属
管原 正志	西九州大学 健康福祉部 教授
南 惣一郎	長崎大学病院 検査部 技師長
小丸 検造	日本赤十字社長崎原爆病院 医療技術部検査課 技師長
今里 和義	地域医療機能推進機構 諫早総合病院 検査部 技師長
金原 俊輔	長崎ウエスレヤン大学 教授

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.kyuigi.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.kyuigi.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			倫理学	コンプライアンスを含め医療における倫理について考え、その歴史から倫理の重要性と現代医療人としての資質の涵養を図る。	1・前期	20	1	○		
○			心理学	HIV検査相談についての講義やグループワークを通して、受検者や陽性者の心理、経過、支援を学ぶ。心理学の各分野を概論的に学ぶ。	2・後期	20	1	○		
○			社会学	医療従事者、社会人になるにあたっての社会的知識を学ぶ。医療の歴史、医療組織、医療法など医学全般的に学ぶ。	1・後期	20	1	○		
○			法学	法概念及び医療関係法規を中心に学ぶ、特に臨床検査に関する法律に国家試験に言及する。	2・前期	20	1	○		
○			数学	統計学の基本的な考え方を理解し、データ解析のための適切な方法の習得を目的とする。	1・前期	30	1	○		
○			物理学	「光のはなし」を中心にしながら、身の回りの出来事を解説する。	1・後期	30	1	○		
○			生物	生物学の知識を整理することにより、高校で学んだ生物学をより深く理解する。	1・前期	30	1	○		
○			化学	臨床検査技師教育に必須の「生化学」「化学分析」「化学分析検査学」などを学ぶために必要な基礎知識を習得することを目的とする。	1・前後	60	2	○		
○			英語	臨床現場で用いられる医用英語の基礎を学ぶ。	1・前後	60	2	○		

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			医用英語	医療現場で使われる医療用語を学ぶ。	2・ 前期	30	1	○		
○			保健体育	身体運動の効果や実践方法を学び、生活習慣病予防をはじめとして健康の保持増進に役立つことを理解するだけでなく、自己管理能力を習得する。	1・ 前期	20	1	○		
○			保健体育	運動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	2・ 前期	46	1			○
○			解剖学	人体の正常な基礎構造について理解を深める。	1・ 前後	60	2	○		
○			解剖学	人体の正常な基礎構造について理解を深める。	3・ 後期	38	1			○
○			生理学	人体の機能とは何かを具体的に知る。	1・ 前後	60	2	○		
○			生理学	動物機能、神経総論、中枢神経、末梢神経、感覚器、運動器について学び、生理学全体のまとめを行う。	3・ 後期	34	1	○		
○			生化学	医学に必要な生命現象を理解する。生命の基本単位である細胞レベルでの代謝や、個体が恒常性を維持する体系を理解し、疾患の発生機序を理解する。	1・ 前後	60	2	○		
○			生化学	1年次に学んだことをもとに、国家試験対策として過去の国家試験問題を中心に解説する。	3・ 後期	44	1	○		
○			病理学	臓器ごとの疾患ではなく、共通する基本的な病態ごとに、その病理学的変化を学ぶ。	1・ 後期	30	1	○		

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			微生物学	微生物の形態、生理と機能など基礎的な分野を学び理解する。微生物と環境・人との関わりを学ぶ。	1・ 前期	30	1	○		
○			血液学	血液疾患の病態を理解するための基礎知識の習得。および、血液検査の概要と日常診察におけるその重要性を理解する。	1・ 後期	30	1	○		
○			免疫学	免疫学を理解するのに必要な生化学・分子生物学と基礎疫学の習得	1・ 後期	30	1	○		
○			実験動物	実験動物の種類、解剖、生理、繁殖などの生物学的テーマの他、実験動物の疾病や実験従事者への動物由来感染症などの微生物学的課題、ならびに各種実験手技の動物への適用およびその際に必要な倫理的課題について学ぶ。	1・ 前期	30	1	○		△
○			公衆衛生学	健康にとって望ましい環境の整備、健康の保持と積極的増進、疾病・傷害への対策、さらに社会福祉・社会保障制度を学ぶ	1・ 前後	40	2	○		
○			公衆衛生学	微生物学実習などで学んだ検査手法を基に、水質検査及び直品検査の中で最も基本的で重要な一般生菌数測定、大腸菌検査、残留塩素測定、大腸菌群数測定の実習を行う。	3・ 後期	30	1			○
○			医療福祉概論	医療サービスの提供者として必要な福祉制度の知識を習得する。	1・ 後期	20	1	○		
○			医用工学概論	電気工学の基礎法則、電気電子元素、医用電子回路を中心に学ぶ。	2・ 前期	30	1	○		
○			医用工学概論	生体物性、生体情報の収集、安全対策を中心に学ぶ、	3・ 後期	62	1			○

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			情報科学	情報処理の基礎能力を養い、情報活用試験3級の合格を目指す。	1・前後	60	2	○		○
○			臨床医学総論	疾患の成因、病態像、特徴的症状を学び、疾患に関する知識を深める。各疾患における臨床検査の意義を理解する。	1・後期	30	1	○		
○			臨床病理学総論	疾患の成因、病態像、特徴的症状を学び、疾患に関する知識を深める。各疾患の診断・治療・予後判定に必要な臨床検査の知識を明確にする。	2・前後	60	2	○		
○			病態解析学演習	グループを作りテーマを決め、企画、計画、実習を通して、お互いに討論し協力して1つの結果へ導くことにより、実社会でのチーム医療の形態を学ぶ。	2・後期	48	2		△	○
○			病態解析学演習	臓器別に疾患の原因や病態、それに対応する検査の方法や意義を解説。国家試験対策としての講義も行う。	3・後期	90	1	○		
○			病理検査学	病理学総論の知識に基づいて、臓器別に頻度の高い疾患について学ぶ。	2・前期	30	1	○		
○			病理検査学	病理検査の役割とその重要性について理解し、病理組織標本の作製法についての理論および技術の習得。	2・前後	92	3			○
○			血液検査学	血液疾患の病態と臨床的特徴を学び、日常診療における血液検査の重要性を理解する。	2・前期	30	1	○		
○			血液検査学	血液の分化・生成の復習を取り入れながらCBCなど各種実習により、この分野の化学的或いは生物学的反応を習熟するとともに科学的思考力を身につける。	3・前後	92	3			○
○			血液検査学	1, 2年で学習した基礎を基に、国家試験に準拠し、過去の問題の解説を交えながら理解を深める。	3・後期	44	1	○		

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			医動物学	人に感染する寄生虫の形態、生活史、感染経路、感染による症状および診断・検査法などについて学び、臨床検査の基礎知識を習得する。	1・前期	30	1	○		
○			医動物学	寄生虫疾患の症状、感染経路と基礎知識をまとめ寄生虫標本の観察、検査の実習を行って寄生虫学の内容の理解を図る。	1・後期	32	1			○
○			遺伝子染色体検査学	遺伝の仕組みを十分に理解する。核酸の構造、遺伝子の構造・発現、ヒゲムを理解する。最新の遺伝子・染色体検査の基礎となる古典的技術の手技と原理を理解する。	2・後期	30	1	○		
○			遺伝子染色体検査学	遺伝子検査の原理を理解し、基礎知識を高めるとともに正しい基本操作を習得し、学ぶ喜びを知る。	2・後期	60	2			○
○			化学分析検査学	検査に必要な知識や分析法に関する基礎的な知識の習得。	1・後期	30	1	○		
○			化学分析検査学	生化学物質の代謝を機能および臨床的意義を理解し、その測定法・測定原理を学ぶ。疾患と検査項目検査値の臨床的意義を理解する。	2・前期	46	1	○		
○			化学分析検査学	各検査項目の測定原理の理解と実習。生化学的意義・臨床的意義を理解する。検査結果において基礎的精度管理の理解と実習	2・前後	92	3			○
○			特殊分析検査学	1、2 年次に学んだことをもとに、国家試験対策として過去の国家試験問題を中心に解説する。	3・後期	50	1	○		
○			一般検査学	一般検査の基本的な手技と検体の取り扱い方について学ぶ。	1・前後	92	3			○
○			微生物検査学	各微生物の構造や性状・病原性などを理解しその検査法を学ぶ。	1・後期	32	1	○		

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			微生物検査学	微生物の構造や性状・病原性などを学び、その感染力や危険性を十分理解したうえで、検査法や手技を習得する。	1・後期	32	1			○
○			微生物検査学	微生物の形態、生理と機能など基礎的な分野を学び理解する。各検査法を理解する。	2・後期	30	1	○		
○			微生物検査学	実習を通し、手技や基本をしっかりと身につける。菌の特徴をより理解し、その感染の危険性を学ぶ。	2・前後	92	3			○
○			免疫検査学	基礎免疫に基づき、各論、特に過去の国家試験で出題された問題に関して解説する。	2・前期	30	1	○		
○			免疫検査学	抗原抗体反応の知識を実践で体験し、生体内防御の機構を理解する。免疫化学分析法等の各検査法の原理、留意点を掌握し、基礎実習から応用までを体得する。	2・前期	60	2			○
○			輸血移植検査学	交差適合試験医おける不適合の場合の対応の仕方・免疫同種抗体の同定法の技術の習得。輸血反応を通じ、補体の知識を習得。自己免疫疾患の種類と検査法を習得。など	2・後期	32	1			○
○			輸血移植検査学	安全で適正な輸血療法がサポートできるように、輸血検査の基本操作のポイント・考え方を習得する。輸血移植検査学及び免疫検査学の国家試験問題を分野毎にまとめ解説する。	3・後期	44	1	○		
○			臨床生理検査学	心電図の基礎知識を習得する。筋電図検査・末梢神経伝導検査の基礎の習得を目指す。	1・後期	30	1	○		
○			臨床生理検査学	心電図の基礎の復習と確認、知識を深める。異常心電図波形についての知識と理解を深める。脳の仕組みと脳波の基本的事項について理解する。	2・前後	60	2	○		

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			臨床生理検査学	心電計の構成や医用電気機器設備の安全管理について学ぶ。心電図測定の手技と被検者への対応の習得を目指す。医療現場での脳波の取り方と判読を習得する。	2・前後	92	3			○
○			臨床生理検査学	臨床生理検査の総復習。国家試験対策。	3・後期	50	1	○		○
○			画像検査学	超音波に必要な基礎知識と技術を習得する。	2・後期	32	1			○
○			画像検査学	病理学（細胞診）、画像検査学の総復習。国家試験対策。	3・後期	46	1	○		
○			臨床検査総論	一般検査の基本的な手技と検体の取り扱い方について学ぶ。	1・前期	30	1	○		
○			検査機器総論	検査に必要な機器や装置に関する基礎的な知識の習得を目的とする。機器や装置に触れることにより、原理や構造の理解を深め、保守管理を含めた正しい取り扱いを習得する。	1・前期	20	1	○		
○			検査管理総論	医療施設における検査室の役割や業務内容、及び医療における検査情報の重要性を理解する。	2・後期	22	1	○		
○			検査管理総論	1, 2 年次における検査総論、検査管理総論の再復習を目的とし、模擬試験、過去の国家試験問題の解説を行う。	3・後期	60	1	○		
○			情報処理技術	数式や基本的な関数の作成、セルの書式設定、グラフ作成など Excel の基本的な操作を理解する。	1・前期	30	1			○

授業科目等の概要

(医療関係専門課程臨床検査科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			検査技術学演習	基本的なビジネス文書作成方法やマナーを知り、効率的な文書作成を目指し演習を行う。	1・後期	20	1		△	○
○			検査技術学演習	1, 2 年の知識を生かし、国家試験対策を行う。	3・後期	32	1	○		
○			薬理学	科学的根拠に基づいた保健機能食品に関する理解、食品と医薬品の違い、その相互作用を正確に理解し判断する能力を習得する。	2・後期	20	1	○		
○			健康食品学	健康食品学総論として保健機能食品制度について学ぶとともに、三大栄養素、ビタミン、ミネラル等の基本的栄養学から現在、特定保健用食品として認定されている食品の成分の効用、接種注意事項などについて学ぶ。	2・後期	30	1	○		
○			臨地実習	学外の病院で長期に渡り実習を行うことにより、臨床検査技師の仕事を深く理解し、チーム医療の重要性の理解と将来の検査技師像を描くことを目的とする	3・前期	546	8			○
○			総合演習	3年間の総まとめと国家試験に向けての総演習。	3・後期	66	2	○		
合計					47 科目	3590 単位時間 (単位)				